



名古屋から鳥取へ

2024年
夏の絶景に感動号



夏の鳥取と絶景と

海上で望む自然景観から 巨大砂像や歴史的建造物まで

鳥取砂丘や名峰・大山(だいせん)など、景観に優れている鳥取県。絶景といえ、海からしか近づくことのできない場所にある洞窟(どうくつ)がこの夏話題を呼んでいて、巨大な砂像アートや豪壮な歴史的建造物はいつだって見る人を魅了しています。今回は、自然が織りなすものに限らず、絶景を巡る旅の提案です。

企画・制作 / 中日新聞メディアビジネス局



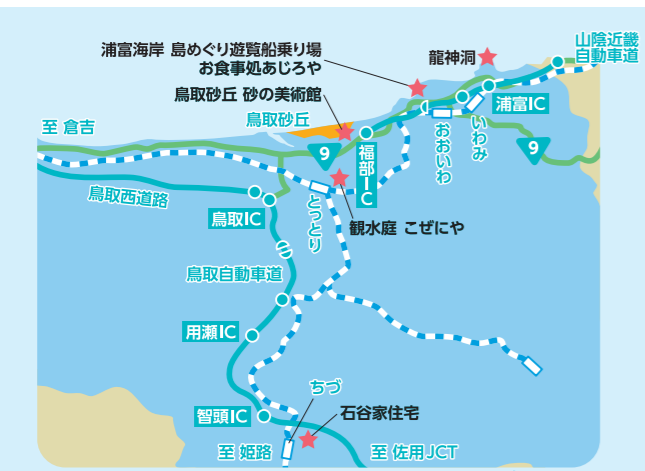
1.龍神洞。山陰島遊覧の「龍神洞遊覧クルーズ」は3日前の午後4時までに要予約。中学生以上2500円他
2.今が旬の白イカの丼は2500円。「浦富海岸 島めぐり遊覧船」乗り場に隣接の「お食事処あじろや」でいた
3.遊覧船から望む浦富海岸 4.「鳥取砂丘 砂の美術館」の展示風景 5.山陰島遊覧の船長・増田
直人さん 6.石谷家住宅 7.「観水庭 こぜにや」の貸切露天家族風呂

遊覧クルーズで感動体験

県の形が龍を横から見た姿に似ているとして、鳥取県は辰年の今年、「とつとリユウ県」と名乗り誘客を図っています。同県で耳目を集めているのは、やはり龍にちなんだスポット。その一つが、県東部の浦富海岸(岩美郡岩美町)にある「龍神洞」です。

ここは、波の浸食により海岸の崖に形成された海食洞(洞窟)で、同県広報課の遠藤志織さんによると、内部は幅8m、高さ10m、奥行き150mあるそう。空を押し上げるように切り立つ断崖の洞窟は文字通り絶景。陸路では行けないため、秘境と言う人も少なくありません。そんな龍神洞に今年、同町の山陰松島遊覧による期間限定の遊覧クルーズが運航、天候や波の状況が良い日には洞窟の中まで行けるそうです。遠藤さんは、「まるで龍神の雄たけびのような、洞窟内で響き合う波と風の音を体感してください」と呼び掛けます。

海上の絶景ならば、同じ浦富海岸の西側も見逃せません。日本海の荒波と風雪が彫り上げた洞窟や奇岩が点在する風光明媚なこのエリアでは、「浦富海岸 島めぐり遊覧船」が運航しています。難破船が積んでい



アクセス

自動車 名古屋西IC→(名神・新名神→中国道)→佐用JCT→(鳥取自動車道)→鳥取IC下車、鳥取市街へ <約335 km>

電車 JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR鳥取 <約3時間20分>

※遊覧船乗り場までは、鳥取駅下車後、岩美駅行きバスで35~40分

鳥取県名古屋代表部
名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5階
TEL.052-262-5411
<https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

鳥取県の観光情報は
こちらから

た菜種が漂着し、菜の花が咲くようになったとされる「菜種島」。菜種五島」や、頂上に1本の松がすくと立つ「千貫松島(せんがんまつしま)」などを巡る船旅は、息をのむような景色が連続します。「岩美ブルー」と称される同海岸の海は、夏の入道雲が影を落としても、なお鮮やか。「コースにある『鴨ヶ磯』は、特に高い透明度を誇ります」とは、遊覧船の増田直人船長です。

今回のように県東部を訪れる際の宿は、鳥取温泉がお勧めです。全国でも珍しい県庁所在地にある同温泉は、JR鳥取駅から徒歩10分程度。例えば老舗旅館「観水庭 こぜにや」は、露天風呂や家族風呂などの湯船が充実、その眺めも申し分ないです。

この夏は、屋内外を問わず楽しめる鳥取の絶景に思い切り期待して出掛けませんか。